令和８年度第１回中央区地域支えあいづくり協議体（議事録）

日　時　　令和８年７月23日（木）10時00分～12時00分

場　所　　中央区社会福祉協議会３階会議室

次　第

1. 開会

2. 会長挨拶

3. 新任委員紹介

4. 各委員より報告

5. 議題
   （1）高齢者施策推進室より報告
   （2）生活支援コーディネーターによる取り組み
   （3）「支えあいのまちづくり協議体（第２層協議体）」実施報告
   （4）意見交換
   　　独居高齢者または高齢者世帯が抱える生活上の課題と支援について

6. 今後の協議体実施予定

7. 閉会

出席委員（敬称略：順不同、◎：会長）

◎射場　典子	聖路加国際大学　国際・地域連携 PCC 開発・地域連携室
清水　学	民生・児童委員協議会　京橋地域高齢福祉部会
宮下　一雄	民生・児童委員協議会　日本橋地域高齢福祉部会
上野　双葉	民生・児童委員協議会　月島地域高齢福祉部会
中島　圭一	京橋おとしより相談センター
保田　奈奈	日本橋おとしより相談センター
石川　紫	月島おとしより相談センター
加久　哲也	中央区桜川敬老館孤立防止・生きがい推進担当
遠藤　馨	中央区浜町敬老館孤立防止・生きがい推進担当
岩﨑　千春	中央区勝どき敬老館孤立防止・生きがい推進担当
黒川　眞	中央区社会福祉協議会　事務局長
安部　信之	中央区社会福祉協議会　地域支援部ささえあい課長 （第 1 層生活支援コーディネーター）
田部井　久	中央区高齢者施策推進室長
左近士　美和	中央区高齢者福祉課長
金広　路子	中央区介護保険課長

配布資料

資料 1	中央区地域支えあいづくり協議体運営要綱
資料 2	私のエンディングノート
資料 3	もの忘れ予防検診のご案内
資料 4	令和8年度中央区高齢者通いの場マップ
資料 5	令和7年度生活支援コーディネーターによる取り組みについて
資料 6	支えあいのまちづくり協議体（第 2 層協議体）実施報告

各委員からの報告：「最近の高齢者の生活の様子について」

【会長】

・聖路加健康ナビスポット：るかなびは移転工事のためしばらく休止が続いているが、9月頃にリニューアルオープンできる見込みとなった。休止中も定期的に健康チェックや健康相談でご利用になる方はいたが、ちょっと立ち寄るくらいの方はどちらにいらしているのか心配している。

・佃のシニアセンターでサロンを開催しているが、ここ数回は参加者が少ない状況が続いている。欠席の理由は、体調や病気、ご家族の介護と様々だが、基礎体力が維持できるようなプログラムを組み入れながら、今後も続けていけたらと考えている。

【京橋地域】
・高齢者通いの場：人数が割と増えていると言えるのではないか。例えば、「湊カフェ」の午後の部は20名近く参加しており、活性化されていると感じる。ただし、男女の割合を見るとほとんどが女性ということもあり、男性が足を運んでくれるような場所を作っていかなければいけないと強く感じている。また、暑い中を移動して新川や八丁堀の集いの場に参加する方も10名ほどいる。今後、真夏や真冬になった時の移動の対応についても気を付けていかなければいけないと話し合っている。
・桜川敬老館：7月から9月13日まで9時から18時まで開館している。利用者数は、だいたい毎日100～120名、17時以降の利用者は8～10人くらい。目的は様々だが、涼む場所としては機能していると感じる。男女の割合は、女性が75％くらいで男性は少ない。お風呂は、女性風呂はだいたい毎日利用されていて、入浴後はマッサージチェアに座って、冷たいお茶を飲みながら話をしている高齢者が散見される。イベントは、今月末から8月3日までリサイクルデーを開催予定。断捨離を進めている高齢者から、毎回リサイクル、美容製品の提供があり、毎回盛況のためぜひ参加いただきたい。
・京橋おとしより相談センター：最近独居高齢者で身寄りがない人が転倒し、救急搬送されたことがあった。身寄りがないがゆえに、転院先を見つけるまでの期限が課題になる。受入体制やシステム作りを関係部署で行っている。

【日本橋地域】
・マンションの見守りを行っているが、各個人まで回り切れないため、マンション管理人と連携して情報を得るようにしている。町会の納涼会や盆踊り大会などにも顔を出して確認している。
・浜町敬老館：ある一定の期間来館されていない利用者をピックアップして電話をしている。
最近の傾向としては、迷惑電話や特殊詐欺にかからないように電話に出ない方が5割くらいに増えたが、今後も継続していこうと考えている。また、通いの場に顔を出しているが、利用者は減少気味。今力を入れていることは、敬老館の利用者が通いの場に行って演奏するとか歌を歌うなどすること。やりがいにもつながるし、通いの場に来られる方の楽しみにもつながると思うのでこれからも続けていこうと思う。
・日本橋おとしより相談センター：昔からある通いの場では、今までは 20 名以上の参加があったのに、現在は 5 名という状況。十思スクエアにある通いの場では、新規で来る方が 10 名くらいとのことだが、担い手が 2 名のため、参加者の中から担い手を見つけることを考えているとお話されていた。5 月に開催した地域懇談会の中で、見守り団体の方が警察と一緒に高齢者のご自宅を訪問して、ポストなどに詐欺防止のステッカーを貼り、それがとても効果があるということで、他の団体が興味を示されていた。
紙の保険証を使用しているときはケアマネージャーの名刺やお薬手帳、他のクリニックの診察券などの情報から誰とつながっているのか分かっていたが、マイナ保険証に変わってからは情報が全くわからなくなってしまった。小さなメモで良いので区役所に何か作ってもらえるとよいのではないかというお話が出た。

日本橋にある企業からお声がけがあり、介護や高齢者介護についての講座に少し出させていただいた。350 名の参加があり、アンケート結果では、介護保険の制度への関心の高さや将来の介護に不安がある方々が多いということが分かった。それにより地域だけでなく、介護離職を防ぐためにも、地域包括支援センターが企業向けにも取り組んでいかなければいけないと感じた。

【月島地域】
・晴海地区では、特別問題を抱えているような方があまり見当たらない。ただしそれは、土地柄からマンションが多く顔の見えない関係があり、関係づくりというのがすごく難しいためと感じる。
その中でもイベントを通して、マンションの自治会長、防災区民組織会長、コンシェルジュなどと個人情報に注意しながら情報共有をしている。晴海にもお年寄り向けのサロンができたということで、これから交流ができるのかなと思っている。
・月島おとしより相談センター:「ひだまりサロン」を定期的に行っており、だいたい 20 名程度が参加される。最初は集いの場として開催したサロンだが、参加者からは生活相談や介護の相談を受けることがある。参加者が定着していることもあり、いつも参加している方が来ないということで参加者同士声を掛け合うような見守りの役割としても機能を果たしていると感じている。
参加した方が講師になって手芸を教えたりして、自分の得意分野を地域で生かすような場にもなっている。7 月末には、おとしよりセンターの近くの保育園が夏祭りを開催するので、そこで地域の方や高齢者もお誘いして一緒に参加する予定。
・勝どき敬老館では、中央区の3館の中で最も講座数が多く、利用者も 1 日平均 130 名くらいになる。今後の課題は、これまで敬老館を利用したことのない方々にどのように関心を持っていただき、来館や講座の参加につなげていけるかだと考えている。また、来館者の中にもフレイルが懸念される方も見受けられるため、早期の把握やコミュニケーションをとり適切な支援につなげられる取り組みも必要。毎年、利用者の方々にアンケートを実施しており今年は 5 月に実施した。皆さまの意見を集約すると、楽しく元気になれて人とつながれる大切な居場所という回答をたくさんいただき、皆さん「居場所」というところで本当に楽しみに来ていただいているのだなということを実感し嬉しく思っている。

【ささえあい課】
・各地域に 1 箇所ずつ拠点を運営している。京橋は「ツキチカ」、日本橋は「はまるーむ」、月島は「勝どきデイルーム」。去年の後半くらいから今年にかけて新たな活動をしたいという相談が結構入ってきている。その中でも、地域住民の方が高齢者を対象にした活動をしたいというお話があり、例えば下記のような活動が実施されている。
〇ツキチカ
・高齢者を対象にした絵本の読み聞かせを通した交流の場
・高齢者にネイルや美容を楽しんでもらうサロン
〇はまるーむ
・住民の方がカフェを運営し、その中でいろいろな企画をされるコミュニティカフェ
〇勝どきデイルーム

・食をテーマにした高齢者の交流の場
・お子様が工作などをするサロンに高齢者をお呼びして多世代で交流

比較的若い年代の方が自分たちの特技を生かしていろいろな高齢者と交流をしていくような活動を始めているというのが最近の特徴であり、こういった活動が広まっていくと良いと考えている。ささえあい課では、そういう方々がどんどん力を発揮できるようにお手伝いしていきたい。
スマホ相談も各拠点で行っているが、初めはスマホの使い方を知りたいというような相談が多かったが、最近はスマホでチケットを予約したいとか、様々な手続きをしてみたいなどの話がある。高齢者の方がスマホを使い慣れてきて相談内容も高度になっており、いろいろなツールを使って外（地域）に出ていこうとすることを応援していかなければと思っている。教えてくださる地域のボランティアの方々と協力して引き続き活動をしていく。

【事務局長】
地域福祉活動計画の策定委員会について
・令和 3 年度から 8 年度までで 6 年間の計画が今年度で満了を迎える。
・来年度以降の 6 年間を見据えた第3期の計画の策定に向けて駒澤大学の川上先生を委員長とする策定委員会を設置し検討を進めている。
・3 月 23 日に策定委員会を開催した中で、地域福祉活動をめぐる現状と 6 年後に想定される地域の課題やそれに対しての今後の取組展望などについてのご意見をいただいた。

〇主な意見
高齢者を取り巻く課題
・マンション開発で転入世帯が増加し、気軽に声掛けがしづらい居住環境の中で孤独化が深まる。これによって認知症の早期発見が遅れたりして、8050/9060 問題の潜在化などのリスクがさらに高まる恐れがあるのではないか。
・地域活動に関しては、通いの場や趣味のサークル活動などのように個別に見ると活発な活動が行われているが、それが横のネットワークや地域団体のつながりには発展していないのではないか。
・情報や各種サービスのデジタル化の流れに取り残されてしまう高齢者が増えていくのではないか。

今後の取り組みの展望
・将来的に人口構成が変化し、各種施設の用途転用が進む可能性がある。そこから生まれるスペースを活用し、地域の居場所や相談の窓口をきめ細かく整えていくことで、困りごとに気づくアンテナの感度が地域の中で高まっていくのではないか。
・今後、団塊の世代、団塊ジュニア世代の高齢化が進むことで、新しい高齢者文化が生まれるのではないか。子どもや外国人を含めた多世代、多文化の交流も有効ではないか。

夏から秋に向けて、計画の素案を取りまとめて、年内にパブリックコメントを実施する予定。

議題説明

（1） 中央区高齢者施策推進室より報告

（2） 生活支援コーディネーターによる取組について事務局より報告

（3）「支えあいのまちづくり協議体（第 2 層協議体）」について事務局より実施報告

【質疑応答】

質疑 1：エアコンの故障や工事によって家にいることが難しい地域住民のために、夏の間だけでもはまるーむを開けてもらえないか

ささえあい課より回答：はまるーむは、月・木曜日と団体の利用がない金曜日は朝 10 時から夕方 6 時まで社協職員がいる。それ以外の日で団体が活動している時には社協職員は不在だが、高齢者の通いの場など予約不要で参加できるため、そちらにお越しいただくようにご案内いただきたい。土日は団体が活動している日以外は開いていないため、敬老館などをご利用いただきたい。

質疑2：クーリングシェルターのマップの配布などはどういう状況か

高齢者施策推進室より回答：中央区独自では作成していないが、ホームページに中央区も含めた東京都全体のクーリングシェルターのマップを掲載している。中央区で指定している区の施設と薬局、民間施設の一覧がホームページに掲載されている。

コメント

地域ごとに高齢者版のようなマップがあると利用しやすいと思うので、関係部署で検討してほしい

（4） 意見交換（グループワーク）

テーマ： 独居高齢者または高齢者世帯が抱える生活上の課題と支援について

【京橋地域】

1. 高齢者施策の充実と予防の前倒し
   - 高齢者向けサービスや施設が十分ではないという意見があった。
   - 認知症予防や介護予防は 65 歳以降ではなく、40 代・50 代から取り組むべきとの声があった。
   - 健康維持に向けた運動や食生活改善などを早期から促進する必要性が指摘された。
2. 地域とのつながり・孤立防止
   - 中央区では転入者やマンション居住者が多く、地域とのつながりが希薄になりやすい。

- サロンや居場所づくりを通じて、新たに住み始めた高齢者が地域に馴染めるよう支援する取り組みが重要との意見があった。
- 人とのつながりは孤立防止や安心感につながるため、地域交流の場の意義が改めて確認された。

3.「高齢者」の多様化
- 現在の高齢者は価値観やライフスタイルが多様化しており、一括りにはできない。
- 従来型の高齢者向け事業だけでは参加しにくい人も多い。
- 若い世代と同じ感覚で楽しめるイベントや企業との連携企画など、新しい発想が必要との意見が出た。

4. 男性高齢者の地域参加
- 男性は地域活動やサロンへの参加のハードルが高い傾向がある。
- 「高齢者向け」と銘打った場よりも、趣味や興味を切り口にした交流機会の方が参加しやすいのではないかとの指摘があった。

5. デジタル活用と AI
- スマホの使い方相談は高齢者からのニーズが非常に高い。
- AI や ChatGPT などの活用が高齢者の情報収集や生活支援に役立つ可能性がある。
- 高齢者向けの AI 活用講座や解説パンフレット作成も有効ではないかという意見が出た。

【日本橋地域】

・自宅で転倒し動けなくなった際、周囲が気づいて救急搬送されるケースはあるが、事前に防ぐ、あるいは直ちに察知する積極的な術がない。

・「自分は大丈夫」「恥ずかしい」という思いや、他人に手をかけられたくないという自立心（頑張り）から、支援の手が届かないまま事態が悪化する。

・「おとしより相談センター」や「地域包括支援センター」の存在や仕組みを知らない、あるいは自分に関係のある場所だと認識していない。

・消費者センター等では解決しない、金銭の絡むトラブル（二重契約等）に巻き込まれているケースがあり、ふくしの総合相談窓口との連携が必要。

・親子で同居していても、外からは支援が必要な状況が見えにくく、2 人世帯だからと安心視されることで支援が遅れる。

・セキュリティの高い高層マンションでは外部との関わりを拒む傾向があり、部屋に入ることも難しく、見守りが困難。

・敬老館は知名度は高いが、一人で入るには勇気がいる。また、すでに常連グループ（固定の輪）ができあがっており、新規の人が入りにくい。

・個人情報保護の観点から緊急連絡先の把握が難しくなっている。管理名簿があっても内容が古かったり、マイナンバー制度の影響等で関係者情報の照会に苦慮したりする場面がある。

・従来の高齢者向けサービスは日中（お昼から夕方まで）が中心だが、夜間（19 時以降）に活動する高齢者や仕事を持つ層もおり、その時間帯の「集まり」やストレッチ教室等にニーズがある。

・介護が必要になる前の段階（40～50 代、または仕事引退直後）から地域活動へ繋げることが、将来の介護予防や認知症対策として重要。
・スマホでの手続き（シルバーパス、チケット等）が必要な場面が増えているが、使いこなせる人とそうでない人の格差がある。AI 活用の解説パンフレット作成等の要望がある。
・毎日勤務しているマンション管理員は、住民の異変（カーテンが開かない等）を察知しやすく、管理員を通じた情報共有や相談が現実的で有効。
・高齢層ほど、人からの紹介や「あの人が言っているなら」という口コミを信頼して参加を決める傾向が強い。
・介護や福祉を前面に出すのではなく、「日本酒の飲み比べ（アンテナショップ利用）」「エンディングノート作成」「丸ごとミュージアム（イベント）」など、興味を持ちやすい企画から繋げる。
・教室などで「また来よう」と思わせるには、講師の質や、参加者同士を繋ぐ声かけが重要。

【月島地域】
・月島地域では高層マンションの増加に伴い、独居高齢者や高齢者のみの世帯が多く、見守りや支援につながりにくい課題がある。
・高齢者世帯でも、9060 などの親子や高齢夫婦などは外から困りごとが見えにくく、支援の対象から漏れる可能性がある。
・マンションはセキュリティやプライバシーが重視されるため、民生委員や支援者が状況を把握しにくい。
・敬老館、サロン、地域イベント、マンション内の交流など、身近な場を通じて外出や人とのつながりを促すことが重要である。
・スマホやオンライン手続き、シルバーパス、申込み手続きなど、デジタル化への対応に不安や相談が多い。
・エンディングノートの配布や終活講座、防災、健康、財産管理など、本人の関心が高いテーマをきっかけに支援につなげる工夫が必要。
・災害時の在宅避難やマンション内の助け合いに備え、日頃から顔の見える関係づくりを進めることが課題となっている。

【会長の総括】
地域ごとに話し合われたことが非常に有意義だった。
独居高齢者や高齢者という見方がひとくくりではなく、これから本当に多様化してくるため、それぞれの価値観やニーズに合わせた支援が必要で、それについて考えていかなければならないということを痛感した。介護が必要とか今課題を抱えている方にばかり目がいくが、どんどん今の若い方たちが高齢者になっていくので、その方たちのニーズや感覚も大切にして考えていかなければならないと感じた。それと、AI やスマホなどが生活の中で重要な位置を占めてきているため、

一つのツールとして、使い方であるとかリスク管理ということについても支援が必要で、今後パンフレットを作成するなどして、情報共有ができるとよいのではないかと考えさせられた。
これから先、どのように地域というものが維持できていくか、課題が多いとは思うが、やはり顔の見える関係性から始まると思う。まずはマンション内で挨拶をし合うことで、その時困っていなくても困った時に声をかけやすくなり、支援してもらうとホッとするというようなことにつながると思うので、関係性がじわじわと広がっていくとよいのかなと思う。
多くの課題が浮かび、支援の仕方の難しさを実感したディスカッションだったが、引き続き皆さまと一緒に考えていきたい。

次回の地域支えあいづくり協議体
令和９年１月頃　開催予定